

# 愛の一座 しょ〜りんぴっく 開催報告

開催日：平成30年10月7日(日) 場所：子どもの館子どもホール 主催：しょ〜りんぴっく実行委員会

今回、目が見えない、見えにくい方々にも【音と音声】で楽しんでいただけるイベント【しょ〜りんぴっく】を企画させていただきました。連休の中日にも関わらず、多くの方々にご参加をいただき、お礼申し上げます。

沢山の方々に楽しんでいただけるよう、ものまねとバンドの演奏で構成しました。また、障害者の方だけでなく、支援者のみなさまにもご案内を差し上げましたが、この場にお集まりの方々の支援の絆が広がるようにと願っております。

チラシにあるタイトルの【しょ〜りんぴっく】という文字に、みんなで笑う輪の意味を込めて「笑〜輪」、障害者支援の輪という意味を込めた「障〜輪」、そしてエンタテインメントの「show〜輪」の意味を込めました。

これを機会にこれまで以上に、障害者の方が安全で安心して住める街づくりの支援の輪が、北九州市から広がることを目指しています。皆で力を合わせていきたいと思っております。それでは、限られた時間ではありますが、どうぞごゆっくりお楽しみください。

しょ〜りんぴっく実行委員会代表あいさつ (9期)豊永 寿博



出演者は得意の腕前を披露

お天気にも恵まれ 150 余名の方々がご来場、笑い笑顔につつまれました。



手話通訳  
要約筆記も活躍



「みんなの職場研究会」は、障害の有無にかかわらず誰もが対等に認め合い助け合い働ける、そんな明るい社会づくりを提案しています。「青空の歌」はマジックショー ザ・チャレンジのために作った曲です。と代表理事の大木さん。みんなで手話をつけ歌ってくれました。



再会を約束して記念撮影

JR九州は2017年3月のダイヤ改正に合わせて筑豊線の7駅を無人化しました。これにより、直方・折尾を除く11の駅が無人化となりました。その後も、大分など九州各地で、ホームのカメラ監視やインターホンによる案内などで遠隔管理する「スマートサポートステーション」の導入が進んでいます。

無人化が発表された2016年秋に私も所属している中間市視覚障害者の会つばさの会は署名活動に取り組み、1万筆を超える署名を集め、JR九州旅客鉄道株式会社社長に提出しましたが、無人化を撤回してほしいという私たちの願いは聞き入れてもらえませんでした。2017年3月スマートステーションを導入して始まった無人化ですが、私たちの生活はとて不便になりました。

国土交通省によると2016年3月末現在、ホームドアがあるのは全国約9500の駅のうち約7%の665駅にとどまっています。ホームドアを設置するのは列車の形状が規格化されておらず、ドアの位置が変わることや、ホームの改修工事など費用が莫大に掛るなどなどの理由からなかなか進んでいません。それどころか、視覚障害者向けの安全対策が全くない駅も約5%あると聞いています。

視覚障害者のホームからの転落事故は年70件以上、発生しています。視覚障害者の4割近くが転落を経験しているとの調査結果もあります。

1日3000人以上の利用がある駅には、ホームドアや内方線付の警告ブロックの敷設、段差解消など、国は駅のバリアフリー化を2020年までに実施すると掲げていますが、筑豊線で無人化された駅は1日の利用者が700人以下。バリアフリーの対象外となっている駅の無人化が進めば、障害者や高齢者の利便性や安全が保たれるのかがとても疑問です。この路線を毎日通勤に利用している私は日々不安を抱えてJRを利用しています。

バリアフリー化から取り残されている駅は乗降者数が少ない駅です。周囲の人の見守りの目も限りなく少ないということに繋がります、このような乗降客が少ない駅にこそ、ホームドアに象徴されるバリアフリー化が求められるのです。乗降客が少なく、バリアフリーから取り残されて行く地方の駅は私たちのような障害者にとっては、ぐっと危険が増すのではと思いますし、ちょっと誰かに依頼をしたくてもお客さんが少ないのですから周囲にお願いすることも難しいのです。皆さんの記憶にもあると思いますが、視覚障害者がホームから転落し、電車に引かれて死亡するという事故は毎年毎年おき続けています。そんなニュースを耳にする度に、悲しく胸が痛みます。

「ホームドアがあったなら」、「近くにいた誰かが声を掛けてくれていたなら」と思うのです。明日は我が身かもとおびえてしまいます。

駅のバリアフリー化と共に皆さんにお願いしたいことは、見守りプラス声掛けです。人間のキャッチする情報の中で、目から入って来る視覚情報は、他の感覚の80パーセントを占めていると言われていています。ですから、私たち視覚障害者は残りの触覚や聴覚・嗅覚・味覚を合わせた20パーセントをフル活用して過ごしています。特に駅だけではありませんが、外出をすることは命がけなのです。皆さんの見守りや声掛けは大変にありがたいのです。皆さんも出かけられたとき、周囲に目を向けていただいて、私のような視覚に障害を持つ方やその他様々なハンディーを抱えている方々を見かけたとき、まずは、そっと見守っていただいて、『何か困っている様子』があれば、「お手伝いしましょうか？」とか「困っていることはないですか？」と声を掛けていただけたら大変にありがたく思います。

周囲に優しさが溢れ、JRだけではありませんが、2020年の東京オリンピックに向けて、バリアフリー化が促進していけば、『おもてなしの国』として世界に誇れる世界一の国・日本になれると思います。

交通弱者と言われる障害者や高齢者がより安全に、より安心して駅の利用が出来るように皆さんご協力をよろしくお願い致します。

